



## 教職協働で進めるアサーティブプログラム・アサーティブ入試 大学経営の先進的事例として評価・公表

### 追大の「アサーティブ」が評価

大学入試改革の先進的事例として全国的に注目を集めている追手門学院大学のアサーティブプログラム・アサーティブ入試が、大学経営における教職協働の先進的事例としても注目され、概要報告書が文部科学省の公式ホームページで紹介されています。

### 追大の「アサーティブ」とは

追手門学院大学のアサーティブプログラム・アサーティブ入試は、学力試験による選抜型から育成型への転換をコンセプトに2014年度より取り組みを進めているものです。文部科学省の「平成26年度大学教育再生加速プログラム」の入試改革の分野において私立大学では唯一採択を受け、制度に基づく中間評価でも最高のS評価を唯一受けました。

「アサーティブ」のねらいは、出願のプロセスに入る前の高校1～3年生に「なぜ大学に進学するのか」「何を学び、どのような将来を描くのか」など、大学での学びに対する期待や意欲を育み受験を促すことで、ミスマッチを防ぎ入学後も能動的な学生生活を送ってもらおうというものです。

このうちアサーティブプログラムは、職員との個別面談をメインとし、アサーティブ入試はグループディスカッションと学力検査の1次試験と2次面接で構成しています。

### 「アサーティブ」は教職協働

「アサーティブ」には追大の職員約110名のうち、半数を超える60名が関わります。アサーティブプログラムにおける高校生との個別面談はすべて職員が対応し、2017年度は約1,000名の高校生と大学に進学する意味や将来について話をしました。

アサーティブ入試では、1次試験のグループディスカッションの評価を職員が担当し、2次試験の面接でも職員が教員と一緒に対応しています。この取り組みを通じて、職員と教員の立場を超えて協働する機運が醸成され職員の成長へとつながっています。



高校生と職員による個別面談(イメージ)

### なぜ大学経営の先進的事例なのか

2014年2月12日に公表された中央教育審議会大学分科会『大学のガバナンス改革の推進について』（審議まとめ）でも、「職員が教員と対等な立場での『教職協働』によって大学運営に参画することが大学改革において重要である」との考えが示されています。

追大の「アサーティブ」は改革の要である「教職協働」の流れを先導する取り組みとしても注目・評価され、文部科学省の「大学等における「教職協働」の先進的事例に係る調査」対象校に選ばれました。対象校は全国で14大学あり、関西からは追手門学院大学、立命館大学、森ノ宮医療大学の3大学が選ばれました。調査報告書は文部科学省のHP→[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/itaku/1403495.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1403495.htm)で公表されています。

この資料の配付先：大阪科学・大学記者クラブ、北摂記者クラブ等

【発行元】

追手門学院 広報課

TEL : 072-641-9590 谷ノ内・足立